

鳥取県福祉研究学会第7回研究発表会 発表要旨等一覧

No.	分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）	使用機材
1	高齢A	1	ホール	10:30~10:50	今年も出かけます~支えて、支えられて~	地域社会で支えることの出来ない高齢者を受け入れ、介護ニーズ自立支援のためのソーシャルワーク機能の強化として、地域の中で、施設の支援機能の強化と地域で支える、拠点施設として、模索しながらも、地域の中に出かけて行き、利用者、職員の意識がどの様に変化していったのか、報告する。	小谷陽子	鳥取県立皆生尚寿苑	岡田誠	PPT
2	高齢A	2	ホール	10:50~11:10	ひとりひとりに合わせた自立支援	私達は介護支援専門員として、自立支援の視点でしているか、できているか。作業療法士会が使用している「生活行為自己確認シート」を使用し、別の視点から利用者のアセスメントを行い個々の利用者が考える、希望する「自立」とは何かを具体的に把握しケアプランにつなげる取り組みを行った。	田中恵理	社福) 福生会 三喜苑 居宅介護支援事業所	松本智子、谷口美沙子	PPT
3	高齢A	3	ホール	11:10~11:30	Nさんが笑った~本当の私は違うのだ~	平成25年7月岩井あすなろうぐいすユニットへ入所となったN氏。入所前の情報にとまどい、入所後関係づくりが思うように進まなかった。 N氏とどうコミュニケーションをとり、関係を築いていけばよいか関わり方を模索した。	倉益律子	介護老人福祉施設岩井あすなろ	石田景子、牧山美智恵、大坪ひろみ、森脇崇司、山下里美、村上一子	PPT
4	高齢A	4	ホール	11:30~11:50	お嬢ちゃん行ってくるよ 生活史をみつめて発見したこと	90歳代後半のE氏は過去和裁の経験があった。その技術を活かして、実習中家族への贈り物を一緒に作成した。 その過程から、本人の過去の経験に対する自信と、離れていても家族との結びつきがあること。	吉川春菜	YMCA米子医療福祉専門学校	岡美奈子	
5	高齢A	5	ホール	11:50~12:10	コミュニケーションを拓く鍵~話しやすい雰囲気をつくるために~	A氏は居室で過ごすのが好きで、日課の散歩や体操の時間以外はほとんど居室で過ごしていた。 他利用者と共通の話題で話をし、笑いあうことで、デイルームで過ごす時間が増え、レクリエーションにも参加するようになった。	多々納萌子	YMCA米子医療福祉専門学校	増田孝之	
6	高齢A	6	ホール	13:00~13:20	よし、体操に行きましょう~A氏にとっての役割とは~	A氏は、食事、入浴、排泄以外は居室で横になり、自分は何もできないと感じていた。そこで体操を提案し、A氏と一緒にを行った。 現在のおかれている状況やA氏の心境に配慮し、A氏の心に学生の心を近づける支援を行うことで対象者の方を理解できるのだと思った。	金尾由希子	YMCA米子医療福祉専門学校	増田孝之	
7	高齢A	7	ホール	13:20~13:40	歩いてこけることが不安~言葉の中に隠された生活に対する思いとは~	A氏はふらつきもつまずきもなく安定した歩行をしているが、転倒に不安を感じている。実習中の介護計画では、A氏が転倒への危険性を理解し、正しく靴を履くことができるように関わった。 事例研究をまとめることで、A氏の不安の背景には家族を守り、役割を果たしたいという思いがあることがわかった。	森田菜月	YMCA米子医療福祉専門学校	藤原紀子	
8	高齢B	8	中研修室A	10:30~10:50	適切なサービスの提供につながった記録の整備	通所リハビリステーションにおいて、フローシートとフォーカスチャータリングを導入し、記録を整備したことで、利用者へ適切なサービスが提供できるようになったことを報告する。	門脇おどり	医) 友誼会 皆生温泉病院通所リハビリステーションゆうゆうの里	井澤美恵子、若原千春	PPT
9	高齢B	9	中研修室A	10:50~11:10	ユニット型特別養護老人ホームにおける看取り介護の現状と課題~家族の揺れる思いを受け止めて~	いこいの杜には、8つのユニットがあり、1ユニット10名の入居者と5名の職員が暮らしています。 開所当初より、いこいの杜では最新の時まで日常生活を支援する場であり、終の棲家としてターミナルケアに取り組んできました。	湊めぐみ	社福) 鳥取県厚生事業団 いこいの杜	西垣幸子、森田知優利、木下朋子	PPT

鳥取県福祉研究学会第7回研究発表会 発表要旨等一覧

No.	分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）	使用機材
10	高齢B	10	中研修室A	11:10～11:30	その人が好きな地域で暮らし続けるためには	介護職が地域との関係が希薄になった老人を地域へ戻すための取り組み	加治屋竜児	地域でくらす会 いくのさん家	竹本匡吾	P P T
11	高齢B	11	中研修室A	11:30～11:50	かいこさんで生き生きかいご	昭和初期、北栄町は蚕を飼っていない家の方が珍しいほど養蚕が盛んでした。そこで昔なつかしい経験を通してみんなが楽しみながら語り合うことにより脳を生き生きとさせ、気持ちを元気にするアプローチにと蚕を飼うことにしました。4年前にも一度、蚕を育てていました。ご利用者様は、生き生きと蚕のお世話をしておりましたが、一年だけで継続することができませんでした。この度、回想法の活用と地域交流を目的として再挑戦しました。	前田説子	社福)みのり福祉会 北栄みのりグループホーム	佐伯和也、上村朋子、福井美歌、藤田舞理、森順子、細川敦子	P P T
12	高齢B	12	中研修室C	11:50～12:10	障害年金を足がかりとした経済的支援	障害年金は国が扱う制度だが、必要に迫られない限り、興味を持つ人は、ほとんどいないと思われる。そして、非常にわかりづらい制度であるがために、介護保険のサービスを利用している人の中には、障害年金の受給要件を満たしているにもかかわらず、障害年金の存在を知らないために、もらい忘れているケースがある。 今回、障害年金を代理請求した事例を取り上げて、考察を述べたいと思います。	尾崎宏之	医)もりもと 森本外科・脳神経外科医院		P P T
13	高齢B	13	中研修室A	13:00～13:20	らくだ会の活動を通して	ケアの現場では、力任せの介護により、介護する側だけでなく介護される側にも大きな負担がかかる。この事が腰痛、拘縮、褥瘡などの2次障害につながっている。双方に負担の少ない介護を学ぶ場が鳥取県東部は少ないと感じる。これらの事を学ぶ場を提供し、浸透させていくためにらくだ会という団体を立ち上げ、その活動を通しての成果、課題がみえたので報告する。	安住慎太郎	尾崎病院	井坂徹、長谷高良美	P P T
14	高齢B	14	中研修室A	13:20～13:40	認知症ケアの質を高める研修とは～認知症重度化予防実践塾の取り組み～	当団体では「認知症重度化予防実践塾」を行い、非常に効果の高い研修あることを実感しました。 この発表で、その成果の様子を紹介するとともに、効果が上がった理由を考察し発表したいと思います。	田中大造	公社)日本認知症グループホーム協会鳥取県支部 医)もりもと 森本外科・脳神経外科医院		P P T
15	高齢C	15	中研修室C	10:30～10:50	経管栄養のより良い提供を目指して～バグタイプへの移行を通じて～	平成24年4月より実施された看護職員、介護職員協働による医療行為の実施により、経管栄養に携わる職員の業務が大きく変化してきました。 現状と問題を整理し、業務の軽減と効率化を図る取り組みとして、栄養剤の見直しを行い、ご利用者に適した製品を探索しました。 医療行為実施に伴い、経管栄養者受け入れを柔軟に対応できる整備を進めてきた経過を発表します。	山本栄美子	介護老人福祉施設ル・ソラリオン	小椋環	P P T
16	高齢C	16	中研修室C	10:50～11:10	嚥下食への取り組み～楽しみや喜びのある食事を～	施設のご利用者の中には、毎日の楽しみである食事を誤嚥し苦しむ方や、又誤嚥により食事を中止しなくてはいけない方、そして誤嚥性肺炎や吸収力低下により低栄養になられる方もおられる。 当施設の介護食がご利用者の、健康を維持し食事を楽しむものにするために取り組んだ事例。	河村真生	社福)あすなる会 白兔あすなる	谷本望美、清水規子	P P T

鳥取県福祉研究学会第7回研究発表会 発表要旨等一覧

No.	分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）	使用機材
17	高齢C	17	中研修室C	11:10～11:30	要支援者への口腔ケアの取り組みについて	通所利用している要支援者の利用状況をみると、身体のリハビリの利用のみで、栄養・口腔のリハビリの利用がない。 口腔機能の重要性について情報提供すると共に、口腔状態の改善・予防することでどのような効果があったのか発表する。	北野正樹	介護老人保健施設ル・サンテリオン東郷	上田敬佳	PPT
18	高齢C	18	中研修室C	11:30～11:50	血液検査とインターライ方式からみた経管栄養と経口摂取の脱水の比較について	高齢者の水分摂取量の低下は短期間で脱水となり、重大な合併症を引き起こす。経管栄養は経口摂取に比べ、一日の水分量は安定していると仮説し、血液データとインターライセメントCAP21脱水を参考に、経管栄養と、経口摂取の脱水比較検証を行った。	福田貴美子	社福）こうほうえん 新しいなば幸福苑		PPT
19	高齢C	19	中研修室C	11:50～12:10	尿失禁の種類別による排泄ケア実践の評価と課題	当施設入所者で尿失禁のある利用者を、インターライを用いてアセスメントし、個別援助を行った結果を、効果の得られた事例とともに報告する。	厨子修二	社福）こうほうえん いなば幸福苑	林竜司、森山大介、川部智輝、岡垣智恵美、村田律子	PPT
20	高齢C	20	中研修室C	13:00～13:20	防災意識改革	近年、多発する自然災害や火災などの災害から、重度化の進む施設利用者の安全をどう守るのかに目を向け、防災訓練などを通じ、職員一人ひとりの防災への意識改革と高揚を図ることを目的とした取り組み内容。	小倉秀之	社福）あすなる会 河原あすなる	小谷拓也	PPT
21	高齢C	21	中研修室C	13:20～13:40	転倒・転落防止策の現状と課題	2009年度に転倒・転落防止の為、補助具やベッドサイドへ患者のADLを表示し、スタッフ間での意識統一を行った。表示を開始してから3年以上経ち、その後、転倒・転落件数の変化やスタッフの意識にどのような変化があったか、アンケート調査を行った結果を報告する。	藤原寛子	鳥取生協病院	北尾周平、山本歩美	PPT
22	障がい	1	第1小研修室	10:30～10:50	あさひ園 就労支援に携わって～見えてきた現状と課題・展望～	昨今の就職事情として障害者法定雇用率が平成25年4月より引き上げられるなど障害者を雇用するための各制度や施策が取り組まれ、障害のある方への就労のチャンスが広がってきていることから、等事業所でも一般就労を希望する利用者の数が増加しており、高まる就労ニーズにどう応えていくのが大きな課題の一つとなっている。	藤原敬司	社福）鳥取県厚生事業団 障害者福祉センターあさひ園	森田礼子	PPT
23	障がい	2	第1小研修室	10:50～11:10	心の扉を開けて～言語療法を通して見える成長の過程～	コミュニケーションの幅を広げる1つの手段として言語療法を用い、利用者の方が自立し、より良い豊かな生活を送ることができるよう取り組む。言語療法に取り組むことで、「1人外出・1人帰省」という利用者の方の願い・目標に向けての成長も期待できる。	山本康平	社福）あすなる会 松の聖母学園	上村太郎	PPT
24	障がい	3	第1小研修室	11:10～11:30	重症児者のかかりつけ医促進の取り組み～西部の開業医への訪問の取り組みから～	地域で生活する重症児者が増加したことに伴い、障がい児者の医療の全てを一部の急性期病院、療育施設のみでは対応することは困難になってきた。地域の重症児（者）、家族が安心して暮らしていけるよう重症児者医療の地域連携のあり方について開業医へのかかりつけ医利用促進の取り組みから考えたい。また、鳥取大学医学部附属病院脳神経小児科による鳥取県西部地域の在宅重症心身障がい児者の多職種連携の現状についてのアンケート調査結果から今後の超重症児を中心とした支援ニーズへの今後の対応のあり方について考えてみたい。	小泉浩二	鳥取県立総合療育センター	汐田まどか、瀬山順子	PPT
25	児童	1	第1小研修室	13:00～13:20	保育園における食育の取り組み～「おいしいね」と食べられる子に～	食生活の影響により、子どもの心のバランスが崩れたり、親の子育ての不安を高めている。食事を通して保育園のみでなく行政・地域・家庭と協働した食育ができてきた。	岸本真由美	社福）福生会 三朝町立賀茂保育園	中田淳子	PPT

鳥取県福祉研究学会第7回研究発表会 発表要旨等一覧

No.	分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）	使用 機材
26	児童	2	第1小研修室	13:20～13:40	あそび大開発！～あそびの中にある 学び～就学に向けてつけておきたい 力“生きる力”の育成	3歳児クラスの子どもの姿と「発達 の目安」に基づいたあそびの展開	大呂ゆかり	社福）鳥取福祉会 よねさと保育園		P P T
27	地域	1	第2小研修室	10:30～10:50	老人クラブにおける支え合い活動に ついて	独居高齢者、高齢者世帯が増加している中で、地域の支え 合いの重要性が説かれている。 老人クラブにおいても自治会等と協力しながら支えを必要 とする人を支援することにより、地域の支え合いの一助と なっていく。	瀬山正八郎	伯耆町老人クラブ連合会	西村恭市	P P T
28	地域	2	第2小研修室	10:50～11:10	さ・さ・え・あ・い～じえじえ と言われる実践を、いつやるか？ 「今でしょ」～	「認知症になっても、住みやすい町づくり」を目指して の、偉業所運営。共生ホームが、支え愛の町作りを行って くうで、どの様な役割が出来るのかをまとめました。	柿本和也	複合サービス事業所 照陽 の家	三代富士子、原翔太、野 口由美子、石塚愛、大屋 道子	P P T
29	地域	3	第2小研修室	11:10～11:30	「高等学校教育における地域福祉教 育の効果的実践に向けて」～サロン 活動体験とおした地域福祉教育的 視点からの考察～	高校生に対する地域福祉意識の醸成に向け、本会で進めて きた「高校生地域福祉活動体験特別事業」について、地域福 祉教育という視点からその成果と課題を整理するとともに、 より効果的な地域福祉教育の実現に向け必要な視点を、サロ ン活動とともに例示する。	秋吉大輔	鳥取県社会福祉協議会	秋本玲志、山根美由紀	P P T